

## 令和7年度第2回渋川市総合教育会議 議事録

### 1 開催日時

令和8年2月3日（火）午前10時開会 11時30分閉会

### 2 開催場所

渋川市役所本庁舎大会議室

### 3 出席者

#### (1) 構成員

星名市長、下境教育長、都橋教育長職務代理者、原澤教育委員、  
須田教育委員

#### (2) 市長部局

鴻田総合戦略部長

#### (3) 教育委員会部局

西脇教育部長、西島教育総務課長、金子学校教育課長、  
照井生涯学習課長、太田文化財保護課長、狩野教育総務課統括主幹

#### (4) 事務局

小野政策戦略課長、樺澤政策戦略課統括主幹、町田政策戦略課主事

### 4 傍聴者

9名

### 5 会議の概要

#### 開会

政策戦略課長	<p>本日はお忙しいところ、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。</p> <p>定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回渋川市総合教育会議を開会いたします。この会議の進行を務めさせていただきます、政策戦略課長の小野と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日は吉田委員がご都合により欠席でございますので、ご報告をさせていただきます。</p>
--------	---

## 市長あいさつ

政策戦略 課長	それでは開会に当たりまして、星名市長からご挨拶を申し上げます。
星名市長	<p>おはようございます。ただいまご紹介いただきました、渋川市長の星名建市でございます。</p> <p>今回が初めての総合教育会議ということで、色々ご指導いただきますようよろしくお願い申し上げます。</p> <p>では、令和7年度第2回渋川市総合教育会議を開催するに当たりごあいさつ申し上げます。教育委員の皆様におかれましては、お忙しい中ご出席を賜り誠にありがとうございます。また、日頃から本市の教育行政の推進に多大なるお力添えを賜っておりますこと、感謝申し上げます。</p> <p>さて、本日の議題ですが、1つ目は、コミュニティ・スクール導入後の状況と今後の課題についてであります。令和6年度に市内小中学校全23校がコミュニティ・スクールへ移行いたしましたので、その後の状況についてご報告するとともに、今後の課題や、発展的な取組とするための方策について、ご意見を賜ればと考えております。</p> <p>2つ目は、はたちを祝う会の新たな取組についてです。令和7年度から新たな取組として、当日の受付方法等の電子化を図るとともに、企業から協賛品を募りました。これらの新たな取組の結果をご報告するとともに、今後の取組についてご意見等を賜ればと思います。</p> <p>そのほか、育てよう縄文の森プロジェクトについてご報告をさせていただきます。これは国指定史跡である、瀧沢石器時代遺跡の保存整備事業の一環として実施するもので、市民の手で種から木を育て、当時の自然環境を復元しようとするプロジェクトであります。これまでの事業の実施状況と今後のスケジュールをご報告させていただきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>結びになりますが、引き続き、未来ある子どもたちが安心して学び、健やかに成長するまちづくりを目指してまいりますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお</p>

	願いたします。
--	---------

## 教育長あいさつ

政策戦略 課長	ありがとうございました。続きまして、下境教育長ご挨拶 をお願いいたします。
下境 教育長	<p>皆様、おはようございます。令和7年度の2回目の総合教育会議ということで、星名市長におかれましては、就任されて初めての総合教育会議ということでもあります。星名市長が掲げるチーム渋川・オール渋川、このテーマは教育委員会も全く同じでございます。子どもや市民を中心に据えて、学校や家庭、地域、そして行政が一体となって、学校教育や社会教育、生涯学習を推進してまいりたいと考えております。</p> <p>さて、第1回の総合教育会議では、不登校対策、小中学校の適正規模適正配置をテーマとして、貴重なご意見をいただきました。その後、いただいた意見をもとに、課題等に対して取組を進めているところでございます。また、小中学校の適正規模適正配置については、今後、基本方針を皆さんにお示しするところまでできているところでございます。</p> <p>本日の会議では、ただいま市長からお話をいただいたように、2つの協議と1つの報告ということで予定をしております。1つ目のコミュニティ・スクールにつきましては、明日、金島ふれあいセンターにおきまして、コミュニティ・スクールの連絡協議会が開催されます。市内全ての連絡協議会の皆さんにお集まりいただきまして、橘北小学校、津久田小学校、赤城北中学校の学校運営協議会に実践発表をしていただきます。そして、今年は新たにその発表の後に、グループ協議ということで、持続可能なコミュニティ・スクールのあり方について協議をしていただくことを予定しております。</p> <p>また、はたちを祝う会につきましては、事務局と運営委員会が様々なアイデアを出し合って、新しい取組をしていただきました。ただ、その取組がどうだったのかということ、参加者や皆さまのご意見を聞いて、来年度以降の取組につなげていければと思っております。</p> <p>3つ目の縄文の森プロジェクトについては、壮大な事業で</p>

	<p>ございます。子どもや市民が参加できるプロジェクトにしていこうということで進めておりますので、その状況をご報告をさせていただきます。</p> <p>結びとなりますけれども、教育委員会といたしましては、様々な事業の取組がございしますが、それぞれの事業が誰のために、そして何のために行われているかということ、担当課・担当者がしっかりと自覚をして、そして参加者・関係者の表情が見える、そんな取組してまいりたいと考えております。責任を持ってその事業を企画運営していくために、いただいたご意見を事業改善につなげていきたいと思っております。まさに今日の総合教育会議が、そんな機会になるとありがたいなと思っております。ぜひ皆様の貴重なご意見をちょうだいしたいと思いますので、本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
--	--

## 議題

<p>政策戦略 課長</p>	<p><b>【配布資料確認】</b></p> <p>本日の会議の傍聴を希望される方が9名いらっしゃいます。本会議は公開の会議でございますので、これを認めることとしてよろしいでしょうか。</p> <p>それでは異議なしということで傍聴を認めさせていただきます。</p> <p>それでは、傍聴者の方に入室いただきます。</p>
<p>政策戦略 課長</p>	<p><b>【傍聴者入室】</b></p> <p>次に次第の4議題に移らせていただきます。渋川市総合教育会議実施要綱第4条第2項の規定により、市長は総合教育会議の議長となるとされておりますので、これからの進行につきましては、星名市長にお願いいたします。</p> <p>なお、会議録を作成する都合上、ご発言をされる方は、お名前をおっしゃっていただいてからご発言いただきますようお願いいたします。</p> <p>それでは星名市長、進行をよろしくお願いいたします。</p>

(1) 協議事項

ア コミュニティ・スクール導入後の状況と今後の課題について

星名市長

それではご指名をいただきましたので、暫時議長職をとり行わさせていただきます。着座にて進めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは(1)協議事項に入ります。コミュニティ・スクール導入後の状況と今後の課題について、説明をお願いいたします。

**【教育部 説明】**

星名市長

説明が終わりました。ご質問やご意見を伺いたいと思いますので、お願いいたします。

都橋委員

考え方、取組方について確認をさせていただきます。まず1つは、市内全小中学校にコミュニティスクールが配置され、それぞれ、地域実態に応じた活動をしているようですが、地域と学校の取組に協力してくれる方に対する報酬は、どのような考え方で支払われているのか、確認をさせていただきます。こういった取組はとても良いことであると肌で感じていますが、そんな中で、やはり地域の人たち、講師の人たち、そういった人たちが対応してくださることに対する報償費、または交通費の考え方を教えてもらいたいと思いました。

それからもう1点、学校の除草の件について、地域の協力で対応していただいているところではありますが、実態として、数が少ないと思います。年に数回は除草作業をやらなないといけない状況で、保護者の方たちが対応してくださっていますが、学校の庭は、土が堅く、色々道具を持ち寄ってやっても、なかなか成果につながらないというのが実態かと思います。そうすると機械の力に頼らざるをえないという状況で、1つの事例ですが、例えばシルバー人材センターの人たちの力を借りるなどの工夫で、何とか学校の環境を良くしていくことを考えてもらえないかなと感じたところです。

以上2点について、よろしくお願いいたします。

<p>学校教育 課長</p>	<p>ご質問ありがとうございます。報酬等につきましては、要綱で定めている中で、一定時間、1回につきという形で一定の金額をお支払いしており、そこに交通費も含まれております。</p> <p>もう1点は、除草等について回数が少ないというお話でした。地域の皆様にご協力をいただく中で、確かに十分な回数かと言われると、まだ不十分なところがあるかと思えます。学校では、技術員の方にご協力をいただきながら、時間をかけて少しずつ除草している状況であります。ただ、運動会等の前では、なかなか大きな面積を除草するには人手が足りないということで、地域の皆様のご協力をいただきながら、除草作業を行っております。</p> <p>また、学校への愛校心を育てる意味も兼ねてですね、人に頼るだけではなく、児童、生徒、職員が環境整備をともにやっている学校も多くございます。全てを他者に頼るということではなく、子どもたち、または、そこで働く職員も同じように汗を流しながら、環境整備に当たる、そんな学校教育を進めているところです。ご指摘をいただいたシルバー人材等も活用できる部分では活用させていただきながら進めてまいりたいと考えております。以上です。</p>
<p>都橋委員</p>	<p>ありがとうございます。対応するには、それなりの準備、労力を費やしますので、報酬の件は、色々な規定があるかと思えますけれども、やはり子どもたちのこと、地域と学校が一体になるということを考え、その報酬費の枠を広げるといった対応も必要だと感じますので、ご検討いただけるとありがたいと思います。</p>
<p>星名市長</p>	<p>ありがとうございました。その他に何かございますか。</p>
<p>原澤委員</p>	<p>私が教育委員1年目のときに、この取組について伺ったときは、学校の負担感がとても増えるのではないかと感じていました。</p> <p>今日お話しを伺って、もともと地域と学校との交流はあったと思いますが、コミュニティ・スクールという仕組みがで</p>

きたことで、学校は頼みやすく、地域は関わりやすくというように、もともとあったものが、より有効に、有機的に繋がって発展していることが分かって、1つの意義というのを感じました。また、どうしても地域と学校の関わりというと、大人が子どもを支援するという感じがしますが、今日伺った中でも、中学生が小学生の面倒を見たりという形もあることが分かり、私の中でちょっと発見でした。大人が子どもに対して、何でもやってあげるということだけでなく、身近なロールモデルとして、小学生が中学生を見て学ぶとか、そういうことがコミュニティ・スクールの中で更に発展していくと良いと思いました。

最後の方に課題というのがありましたが、例えば、何かもっといいものをやらなくてはならないとか、他の学校もやっているからやらなくてはならないとか、どうしても学校側としてはそういう観念が出てしまうと思います。コミュニティ・スクールに移行して2年が経過しますが、地域の皆さんとか、学校の先生方に対して、この取組についてどう考えてますかという内容のアンケートをとることは、検討しているでしょうか。前半は感想で、後半は質問となります。よろしく願いいたします。

学校教育  
課長

ご質問、ご意見等ありがとうございました。

先ほどの感想にもいただきましたとおり、それぞれの学校で、小学生が中学生の姿を見て、こんな風になりたいなと思えるような、ロールモデルを見せていただくという場があるような状況でございます。

また、アンケートを取っていますかというようなご質問をいただきましたが、各学校が学校運営協議会の中でアンケートをとるケースもございます。また、学校評価という形で、それぞれの学校の経営に対するご意見を、地域の方、または保護者、子どもたちから伺っている状況もございます。ただ、学校運営協議会のことだけのアンケートということではございませんので、十分かと言われれば、そこはまた検討の余地があるかと思えます。また、現在詳細なデータがございませんので、こうだということは申し上げられませんが、各学

<p>原澤委員</p>	<p>校で、それを改善に結びつけているというような状況でございます。以上です。</p> <p>ありがとうございます。持続可能ということも出てきましたので、やはり実現するためには、問題点を把握していくことは大切だと思いました。</p>
<p>下境 教育長</p>	<p>ご意見ありがとうございます。私から1つお話しさせていただきます。コミュニティ・スクールが展開されるようになって、明らかに中学校が変わったと思っています。中学生が地域の行事やイベントに関わり、そこで小学生や地域の人たちと交流することが増えています。中学生は、小学生以上に調整力があるので、例えば受付役など、小学生の時にはできなかったことが、中学生になるとできるようになるということがあるかと思えます。</p> <p>それと、これまでは、地域の方が学校と関わるのは、ほとんどが小学校でしたが、コミュニティ・スクールが始まってから、中学校にも様々な地域の力が入ってくるようになりました。また、中学生はこれまで部活動を理由に地域の行事に参加せず、お祭りなども小学6年生でほとんど終了というケースが多くなっていました。そんな状況だったところ、今回も様々な中学校に活躍していただいて、中学生が地域に出ていくことで、非常にいい取組になってきているかなと思っております。小学校・中学校の関わり、子の関わり、そして子どもと大人の関わり、様々な関わりが出てきていることを実感しております。</p> <p>あと、明日行われるコミュニティ・スクールの連絡協議会について、実践発表が行われますが、こういういいことがありましたとか、こういう成果が上げられましたとか、中には当然課題も出てくるとは思いますが、それぞれの特徴的ないい取組をみんなで共有しようとするものであります。その中で、その地域だからこそできるものがあったり、また、その地域の特徴みたいなものがそこで発表されるのは本当にいいことだと思いますが、あそこがやっているからうちもやらなくてはいけないという、プレッシャーにはならないように対</p>

<p>星名市長</p>	<p>応していきたいと思います。そのために、今回は協議というのを取り入れており、アンケートとまではいきませんが、地域で実際に活動していて、どんな感想をお持ちなのかとか、どんなふうにこの取組をしていったらいいのかということが、意見として出てくるのではないかなと思っております。</p> <p>ありがとうございました。続いて須田委員お願いします。</p>
<p>須田委員</p>	<p>地域と学校が連携する必要性、またその地域の将来を担っていく子どもたちに対する支援やその目的を、地域に正しく理解してもらうために、情報発信や説明を繰り返す必要があると思いました。そこで、啓発活動は、どのようにしているのでしょうか。</p> <p>それと、やはり地域の方が子どもたちと接する機会が増えるので、一定の基準や規範が必要になるのではないかと思います。距離の保ち方を意識して、今後の活動に活かしていただければと思います。</p> <p>それと、今までの活動の中で、失敗例のようなものはありましたでしょうか。</p>
<p>学校教育課長</p>	<p>ご意見またご質問ありがとうございます。</p> <p>地域への情報発信ということで、具体的に申し上げますと、保護者に向けたメール機能を持ったアプリがございますので、画像等を載せることにより、実際に行った活動を発信しています。中には、毎日載せている学校もございますが、1週間とか1か月のスパンで情報を発信している学校もございます。これは、保護者向けではございますが、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に見ることも可能な機能もございます。また、各学校における取組については、市のホームページにも載せさせていただいております。更に、学校運営協議会で、通信のようなものを作って、それを地域に発信している学校もございます。地域の皆様が子どもと関わることで得られる喜びであるとか、またはやりがいであるとか、そういったところを発信して、活動の輪が広がっていくといいなと考えております。</p>

	<p>また、地域と学校の関わりが増えることによって、基準や規範が必要なのではないかというご意見をいただきました。それぞれの学校運営協議会が考えながらやってくさっているとは思いますが、具体的な基準があるかどうかは、把握しきれていない部分がございますので、確認及び周知を図ってまいりたいと思います。</p> <p>また、現時点で失敗例はあるのかということですが、失敗例という認識ではないのですが、例えば、ミシンボランティアという活動の中で、ボランティアの方に全て1から10まで手助けをしてもらってしまうと、子どもたちは失敗する経験を失ってしまいます。子どもたちは、小さな失敗の中で学び、どうやったら改善できるのかを考えながらやっていきますので、うまくいかないことも、あえて、そこを見守っていただきたいということで、担任の先生方がボランティアの皆様と、事前に打ち合わせをして、本当に困った場面では手助けをしていただくというケースもございます。これが失敗例かというのは、難しいところですが、学校の中で様々な工夫をしながら、また、改善に向けて、取り組んでいるというのが実例としてございます。以上です。</p>
星名市長	<p>ありがとうございました。そのほかいかがでしょうか。</p>
下境 教育長	<p>本当に貴重なご意見をちょうだいしたなと改めて思いますので、今後検討させていただきたいと思います。</p> <p>4ページに示させていただきました、これが今渋川市が掲げている、コミュニティ・スクールのイメージとなります。そこに学校、地域、地域学校協働活動推進委員とありますが、渋川市の特徴は、各地域にある公民館、そして公民館長さんを中心とした組織が非常に有効に機能していることだと思います。地域と学校をつなぐためには、そこをつなぐ人がいないといけないわけであります。そのつながりが、ある1分野だとか、1領域だけですと、そこだけしか充実を図ることができなくなってしまうので、学校・地域を取り巻く様々な組織をうまく調整・コーディネートしていくことが必要になります。そういう意味では、この中心にある地域学校協働活</p>

星名市長	<p>動推進員さん、これは公民館長さんが中心となりますけれども、ここが機能していると思っております。</p> <p>そこにあるイメージ図のように、いい形で連携を図っていくためにも、皆さんで共通理解をしながら進めていけるとありがたいと思っております。</p> <p>ありがとうございました。他にはないようですので、この議題でいただきましたご意見等につきましては、今後参考にさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>
<p>(1) 協議事項 イ はたちを祝う会の新たな取組について</p>	
星名市長	<p>それでは続きまして、協議事項、はたちを祝う会の新たな取組について説明をお願いいたします。</p>
<p><b>【教育部 説明】</b></p>	
星名市長	<p>ありがとうございました。説明が終わりましたが、ご質問やご意見等があれば、よろしく願いいたします。</p>
都橋委員	<p>私も参加させていただいて、とてもいい時間を過ごさせていただきました。やはり当事者の人たちに参加してもらうことはとてもいいことだと思います。運営の方々がとてもイキイキとして、元気よくやっていた姿がとても印象に残っています。</p> <p>今回、受付が電子化したということで、場所や条件によってWi-Fiが繋がりにくく、それに対する意見があったとのことですが、これは、時間が解決してくれたり、性能の問題もあると思いますので、あまり苦にすることはないかと思えます。ただ、システムの問題は、例えば重くなったりして、固まってしまうこともあると思うので、受付方法のバックアップ体制を備えていただければ、より良いかと思いました。</p>
星名市長	<p>貴重なご意見をいただきまして本当にありがとうございました。</p>

原澤委員	<p>す。その他にございますでしょうか。</p> <p>デジタル化というのは、本当に時代に合わせた大きな変革であり、生涯学習課の方々にとっては、すごい労力だったと思います。私も出席させていただき、大成功だったのではないかなと感じました。</p> <p>また、協賛ということで、色々な抽選会もとても楽しそう。非常によかったかと思いますが、協賛された企業とか協力した青年会議所の方などの身近な方が、渋川への愛とか、この地に生まれてこんなに頑張ってるんだ、渋川っていい所なんだというような話を、例えば10分とか20分でもいいので、はたちの方へのメッセージとして設ける場面があってもいいのではないかと思いました。次の日の上毛新聞に、見開きで各自治体の成人式の様子がありましたけど、大体、応援隊大使や有名な方からのメッセージが多くて、そういった形もいいとは思いますが、この地に生まれた青年みたいな人で、渋川は良いところなんだ、一緒に頑張ろうみたいな話を語ってくれる方がいれば、あるいは、協賛の中にそういった方がいればいいと思いました。公的な行事なので、平等性とかを考えないといけないのかもしれませんが、そういったものを取っ払って、身近な人の話をはたちの人たちに聴かせてあげる機会があってもいいのではないかと思いました。</p>
星名市長	<p>ありがとうございます。それでは須田委員お願いします。</p>
須田委員	<p>受付方法のデジタル化という新しい取組がはたちの方にも受け入れられ、会も円滑に運営されたということによかったと思います。</p> <p>また、今後は協賛品のみならず協賛金の募集も検討されているということで、より広い範囲で、多くの方から協力いただけるような形になっていけばよいと思いました。</p>
星名市長 下境	<p>ありがとうございます。それでは教育長お願いします。各委員さんからそれぞれお話しいただきありがとうございます。</p>

教育長

ました。

今年の運営委員さんは、中学3年生の時にコロナ禍たった中で、修学旅行などのいろんな学校行事ができなくて、そんな運営委員さんが最初に集まったとき、私もその場に同席させていただきましたが、私が直接教えていた当時の三原田小の6年生や、北橋中のときに直接卒業証書を渡した卒業生がきてくれて、今回会うことができ、子どもたちの成長の様子を直接見ることができ非常によかったなと思います。

また、運営委員さんと生涯学習課の担当が、知恵をたくさん出し合って、今までと違う形でできないか、地域を巻き込んでできないかというところで、この協賛品の取組に繋がりました。それと、二次元コードによる受付というのも、まさに時代の流れかなというふうに思います。都橋委員がおっしゃるように、もしも何かあったときに、受付の機能が止まってしまうこともあると思いますので、今後の対策も含め、バックアップ体制を考えていきたいと思います。

それと、協賛品をいただいた企業さんに、翌日お礼の電話を入れさせていただきましたが、代表の方が口々に、こういう形で協力できてよかったとおっしゃっていただいたので非常によかったかなと思います。ただ、その中で、こちらから企業さんを紹介するだけではなくて、こんな思いで応援しているんだというようなメッセージが込められた形で応援をしていただけると、また更により協賛の形ができるかなと思います。

あとは、はたちの人たちが小学6年生のときに書いた手紙を、青年会議所の皆さんが配ってくださって、当時のことを思い出す時間もありました。青年会議所の皆さんは、こういった形でずっと関わっていただいているので、身近な先輩として何か一言いただけるような機会があるといいなと改めて感じております。来年度、更に充実するような形で取り組んでまいりたいと思っております。

星名市長

ありがとうございました。この件につきましては、ご感想等もいただきましたので、しっかり取り入れて、また次に向けて進めていければというふうに思っておりますので、どう

	<p>ぞよろしく願いをいたします。</p>
<p>(2) 報告事項 ア 「育てよう！縄文の森プロジェクト」について</p>	
星名市長	<p>それでは(2)報告事項に移りたいと思います。育てよう縄文の森プロジェクトについてご説明をお願いいたします。</p> <p><b>【教育部 説明】</b></p>
星名市長	<p>ありがとうございました。報告事項の説明が終わりました。ご意見があればお願いいたします。</p>
原澤委員	<p>私も協働型というのをやってみたいなと思いましたが、広報はどのようにしていたのでしょうか。広報をよく見ているつもりですが、こういう取組についてあまり存じ上げないことについては、反省しておりますが、広報の仕方をお伺いできればと思います。それと、赤城自然園は、全国的にも注目されるところで、私も好きで行きますけど、渋川にあるというメリットを最大限に有効活用していければよいと思います。また、赤城自然園以外に、どんぐりの採集場所であるとか、そういう活動場所が他にもあるのか、その2点を確認したいと思います。</p>
文化財保護課長	<p>1点目の広報に関しましては、市の広報誌に募集記事をあげさせていただき、ホームページでも周知をさせていただいたところがございます。また、学校参加型につきましては、定例の校長会議に職員が出向きまして、説明をさせていただきました。</p> <p>それと、赤城自然園については、本当に市内にあるということが大変ありがたい状況であります。ただ、どんぐりの種類によって、よく拾える場所が違いますので、事前に職員がリサーチをしまして、赤城自然園以外ですと、金島小は校内で広く作業ができたり、市内にある公園だと、総合公園なども、採集ができる場所となっております。以上です。</p>

原澤委員	<p>このぐらいの参加人数でよしとされているのなら、それでいいのですが、もう少し人数がいた方がよければ、例えば、赤城自然園に無料でいけますとか、そういう付加価値をつけて、自然が好きな人を呼び込むというのもあるかなと思いました。また、私もこの取組に参加できたらと思っております。</p>
文化財保護課長	<p>このプロジェクトは、やりながら、考えながら進めていくようなプロジェクトでありますので、色々工夫して、アイデアを出しながら、取り組んでいきたいと思っております。</p>
星名市長	<p>ありがとうございます。それでは都橋代理者、お願いします。</p>
都橋委員	<p>ドングリに限定したことには、何か理由があるのでしょうか。</p>
文化財保護課長	<p>実はどんぐりだけではなくて、くるみなども入っております。どんぐりも多種多様ありますが、縄文時代は、狩猟採集の時代と言われますけれども、植物利用が大変多岐にわたって行われておりました。動物を相手にするのはなかなかハードルが高いので、まずは植物利用を中心に考えました。現代人からすれば、どんぐりを食べるなんて、ちょっとどうなのかと思う人もいるかもしれませんが、あく抜きなどの色々細かい作業を体験し、感じていただくのには、どんぐりが一番身近な題材であると考えております。</p> <p>あと、世界的に有名な縄文時代の植物利用としては、漆というものがありますが、漆の取り扱いは、それこそアレルギーやかぶれなどもあり、取扱も難しいため、どんぐりを題材として取り扱っております。もし今後、扱うのにいい題材が出てくれば、それもメニューに加えていければと思っております。</p>
都橋委員	<p>ありがとうございました。どんぐりを食べられることを初めて知りました。</p>

星名市長	<p>ありがとうございました。それでは須田委員お願いいたします。</p>
須田委員	<p>壮大な理念とロマンを感じるプロジェクトだなと思ってお話を伺いました。</p> <p>参加の入口は広く、多岐にわたっているので、どなたでも自分たちの時間のとりかた、状況に合った参加プランを選べて、すごくワクワクするような楽しいプロジェクトになっていてとてもいいなと思いました。</p> <p>私自身も、かつて土器の復元で、実測・製図などをやっていた経験があります。先ほど原澤委員もおっしゃっていましたが、広報活動などをおしてもっと周知できれば、更に大きな事業に発展するかと思いますので、応援させていただきます。</p>
星名市長	<p>それぞれ感想いただきましてありがとうございました。それでは教育長からお願いいたします。</p>
下境 教育長	<p>史跡瀧沢石器時代遺跡保存整備委員会という組織がございまして、今月の16日にその方々と、現地視察をしてまいります。6ページ7ページを見ていただきますと、この広大な敷地を、少しずつではありますが整備していき、そこに縄文の森を作っていこうという、須田委員さんが言ったように、本当に壮大なプロジェクトで、長い期間をかけて、この整備事業に取り組んでいくということになります。</p> <p>今回特徴的なのは、最初ご意見をいただいたように、子どもたちも含めて、市民の方にこの事業に参画をしてもらおうということでありまして。植栽を専門事業者にお預けしてしまえば、ある程度綺麗な形は整うと思いますが、この整備事業の中で、採集し、植えたどんぐりが成長していく、もしかすると20年後、そこでどんぐりの木が育つという、そういったところまで期待しながら、事業に取り組んでいただくということでありまして。また、今回のプロジェクトでは、4つのパターンで参加していただくことができ、学校参加型では、地元の赤城の小学校などに協力していただいております。</p>

もう1つ特徴的なのは、学校が参加する事業は、通常、その学年の中である程度完結をするような体験活動がほとんどで、単年度で終わってしまうものが多い中で、このプロジェクトは、次の年に持ち越す、あるいは数年かけて行う、非常に珍しい取組になると思います。3ページにありますように、様々な学校・学年に取り組んでいただいております。渋川西小の1・2年生、中郷小の2年生、三原田小の2年生には、生活科という学習の中で取り組んでいただいております。また、金島・津久田小の4年生・5年生は、環境学習や地域を知る学習の中で取り組んでおります。もしかすると、児童・生徒が卒業する頃には、植樹した木が自分の身長よりも高くなっているような、そんな場面を見ることができるかなと思います。子どもたちが将来、自分が植えたどんぐりの木が成長している様子を見られるというのも、すごく夢があっていいかなと思います。

また、文化財保護課では、学校への出前授業を非常に盛んに実施しています。瀧沢石器遺跡だけでなく、渋川市が所有している様々な文化財、遺跡等について、各学校に出向いて授業をしていただいております。例えば、土器を直接手で触ったりとか、そんなことをしていただいて、そこで学習したことを、地域活動の中で、自分の目で確かめるというような学習をしていただいているので、渋川市が持っている文化遺産を大事にしていく、そういう気持ちを育ていけるのではないかなと思っております。このプロジェクトが、将来日本中から注目されるような、そんな事業になることを期待しておりますので、皆さまにもご協力をお願いできればと思います。

星名市長

ありがとうございました。色々意見が出尽くしたようでございます。いただいた意見を参考にさせていただきたいと思っております。

以上で本日の全ての議事が終了いたしました。事務局から何かあればお願いいたします。

事務局	事務局からは特段ございません。
星名市長	<p>事務局からは特にないということでございます。委員の皆さんから最後に何かありましたらお願いいたします。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、予定していた議事については滞りなく終了いたしました。ご協力本当にありがとうございました。進行を事務局にお返しいたします。</p>

## 閉会

政策戦略課長	長時間に渡りまして大変ありがとうございました。それでは以上をもちまして、令和7年度第2回渋川市総合教育会議を閉会とさせていただきます。本日は本当にありがとうございました。
--------	---